

出席者：宮 田 徹 委員、吉 本 博 昭 委員、石 田 陽 一 委員、
今 泉 潤 委員、大 西 貞 夫 委員、青 木 誠之助 委員、
長 澤 正 雄 委員、澤 橋 貴 子 委員、高 城 繁 委員、
中 川 伸 一 委員、久 保 寿 市 委員、土 肥 裕美子 委員、
野 口 雅 司 委員、鈴 木 義 治 委員、前 島 靖 彦 委員、
金 子 かつよ 委員、長 谷 健 吾 委員、舟 坂 雅 春 委員、
吉 田 智 子 委員、橋 本 英 徳 委員

議題：

- I 次期障害者計画策定に向けたアンケート調査の実施について
- II 委託相談支援事業者の運営等について
- III 基幹相談支援室の事業等について
- IV 基幹相談支援室の事業等について
- V 障害福祉計画の進捗状況について
- VI 障害児福祉計画の進捗状況について
- VII 障害福祉の現状について

会議資料：資料本体、富山市障害者自立支援協議会運営要綱

議事概要：

議題Ⅰ～議題Ⅶに関して委員に意見をお伺いした結果、下記の通り意見が寄せられた。
なお、事務局の回答は意見の次に記載した。

（委員意見）

「Ⅱ 委託相談支援事業者の運営等について」に関して、相談の実績として件数のみが記載されているが、件数だけでは、相談支援の課題やその解決策、適切な相談対応（断らない、伴走する支援になっているか）が行われているかわからない。そのため、今後、相談者への対応（断ったケースの有無等）、相談の対応結果、困難事例への対応状況等についても委託相談支援事業者へ追加で報告を求めているかどうか。

（事務局回答）

相談実績の内容につきましては、国へ報告する「福祉行政報告例」の件数を基にしております。

一方で、ご指摘のとおり、課題の把握や相談対応の適切性の判断は重要であることから、各委託相談支援事業者と協議をしながら、設問内容について検討したいと考えております。

（委員意見）

「Ⅰ 次期障害者計画策定に向けたアンケート調査の実施について」に関して、アンケート調査票の記入についての説明書きの箇所に「なんらかの事情でご本人が記入できない場合は、ご家族の方などに代筆していただくか、ご本人の意思を尊重して代わってご回答ください。」とある。施設入所中の方などは、質問の意味を理解できない方がほとんどであ

るため、説明書きにある「ご本人の意思を尊重して代わっての回答」を家族以外の施設職員等が記入してもよいのかどうか、記入の仕方について施設入所者にもわかりやすい記載内容であるとよりよいと思う。

（事務局回答）

「ご本人の意思を尊重して代わってご回答ください」という表現は、代筆者を家族に限定しているわけではなく、施設職員など、日頃からご本人の状況をよく理解されている方が、ご本人の意思を最大限に尊重して代筆することも可能と考えております。

ご指摘のとおり、現在の調査票ではこの点に関する記載が不明確な箇所がございますので、「ご家族の方や、日頃からご本人の状況をよく理解されている支援者（施設職員など）による代筆も可能です」といった代筆者の範囲を明確化する文言や、記入についての冒頭に「質問の意味が分かりにくい場合は、ご家族や支援者と一緒に考えてご回答ください」といった文言を追加し、一人で回答することが困難な方でも安心して回答いただけるよう改善したいと思います。

以上